

カラマツカサアブラムシ

春から初夏にカラマツやグイマツの葉裏に小さな白い綿のかたまりや微小な黒い粒が付着する。綿状のものは成虫または卵のかたまり、黒い粒は幼虫である。

すす病を併発するので、木が汚れる。



1. 成虫死骸。1999/7/7. 美唄市, グイマツ。

【学名】 *Adelges laricis*

【分類】 カメムシ目 (Hemiptera) , カサアブラムシ科 (Adelgidae)

【分布】 北海道；サハリン, 朝鮮半島。

【生態】

枝などで幼虫越冬。早春に翅（はね）のない雌成虫になり、産卵する。子供は翅のある雌成虫か翅のない雌成虫になる。有翅雌成虫はエゾマツに移動し産卵するが、孵化幼虫は発育できないといわれている。無翅雌成虫はカラマツ上で産卵する。孵化幼虫はそのまま越冬するか、成虫まで発育して産卵する。

発育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～
幼虫（越冬）	+++	+++	+++	+++	+++	+++
幼虫・成虫（加害）		..	■■■■	■■■■	■■■■	..			

【被害と防除】

庭などでしばしば多発する。特にグイマツに多い。

白い綿が目立つ。また、すす病を併発するので、木が汚れる。とはいえ、寄生による著しい樹勢の低下や枯死の例はしられていない。普通は防除を必要とされない。

【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病虫害図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).
1994. 尾崎研一. その他のカサアブラムシ類. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集, 森林昆虫, 総論・各論: 475-477. 養賢堂, 東京.
(形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

カラムツカサアブラムシ [abura/karakasa/
kaiset.html](http://abura/karakasa/kaiset.html)

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/13.

musi.JPG

「写真1」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1999.